120

整形外科術前症例における深部静脈血栓例の特徴

◎細井 亮二[1)]、寺西 ふみ子[1)]、駒 美佳子[1)]
八尾市立病院 中央検査部[1)]

(はじめに)
周術期の肺動脈塞栓症の予防目的のため高リスク症例には術前の下肢静脈エコー検査が行われており、整形外科症例は術前の血栓症検出率は高いと考えられている。しかし、整形外科術前症例において特に骨折の有無に注目した深部静脈血栓例の臨床的特徴は明らかとはいえない。
(方法)
対象は 2012.4 から 2018.3 の間で術前に最高リスクあるいは高リスクで D-dimer が 1 μg/ml を越えていたため下肢静脈エコー検査を施行した整形外科術前症例（n=516、男性/女性 147/369, 平均年齢 75 歳）である。
(結果)
深部静脈血栓症は 93 例(18%, 男性/女性 12/81)に認められ、年齢が有意に高く(p=0.020)、女性に多く(p<0.001)、血液検査で白血球数が少なく(p=0.002)貧血を示したが(Hb,p<0.001)、D-dimer や CRP には差は見られなかった。骨折の有無で 2 群に分けると、骨折例(n=369)では非骨折例(n=147)に比し血液検査では白血球数が有意に多く(p<0.001)貧血を示し(Hb,p<0.001), D-dimer も有意に高値を示したが(p<0.001)、深部静脈血栓症の頻度には両群間で差は見られなかった。骨折例において、深部静脈血栓症例（n=68, 18%）は女性の頻度が高く(p<0.001)白血球数の低下(p<0.001)や貧血(Hb,p<0.001)を示したが、D-dimer ・ CRP には差は見られなかった。
(考案)
整形外科骨折例は深部静脈血栓の有無に関わらず非骨折例に比べて白血球数が多く貧血があり D-dimer が高い。骨折の深部静脈血栓例は女性が多く白血球数の上昇が少なく貧血がより高度であったが D-dimer には差は見られなかった。術後に肺動脈血栓症をきたしやすい高リスク症例に対して術前に既存の下肢静脈血栓症の有無を D-dimer で判別することは容易ではなく、検体検査とともに下肢静脈エコー検査は有力な手段である。特に高齢・女性の整形外科症例ではより注意が必要である。

連絡先 - 八尾市立病院 中央検査部 (072)922-0881